

平成30年7月豪雨被災からの復興に向けた 補助金活用支援

支援機関 愛媛県よろず支援拠点

支援内容 ものづくり補助金等の申請書作成支援

支援区分 経営革新

たたみ善

事業者 概要

社名／たたみ善
代表者名／代表 木下 恵美子
業種／製造業（畳製造・販売）
所在地／大洲市菅田町菅田甲3155
資本金／個人事業主
設立／昭和44年9月
従業員数／3名



畳技能士
長女 佐々木 京子氏

支援に至る経緯

平成30年7月の集中豪雨で工場前の肱川が氾濫し、工場及び倉庫が床上浸水で甚大な被害を受けた。事業復興に向け何をすべきか途方に暮れていた時に、声をかけてくれたのが大洲商工会議所である。担当者から愛媛県よろず支援拠点から補助金申請でのサポートがあると紹介され、大洲商工会議所に来所され相談対応したのが支援に至る経緯である。災害関連の支援策を紹介するなかで、「ものづくり補助金」申請をしたいということとなり、申請書の作成支援を行うこととなった。

支援内容

平成30年7月豪雨被災を機に、これまでの属人的な技術に依存する非効率的な生産体制から高度な技術を自動処理できる最新設備を導入し、生産キャパシティの増大、短納期・多品種対応の効率的な生産体制に切り替え、売上・利益拡大を目指すこととした。

事業環境分析（SWOT分析）で現状把握、経営課題を明確化し、設備導入効果でどのように課題解決を図っていくのかを検討しながら、取り組み内容を整理していった。また、中小サービス事業者の生産性向上のためのガイドラインとの関連性では、付加価値の向上として、①新規顧客層への展開、②商圏拡大、③顧客満足度の向上という視点で、効率の向上として、サービス提供プロセスの改善の視点で取り組み内容を具体化していった。

製造フローは相談者が作成したイラストと画像とで分かりやすく表現し、支援体制、実施スケジュール、将来展望、設備導入効果、本事業終了後の5年間の事業化スケジュール、数値目標としての事業計画までを木下氏の前向きな取り組みもあり、申請書が完成され提出に至った。

その後の相談対応で、設備導入後の新規顧客開拓のための販促ツールとして、自社HP、パンフレット類、工場・事務所の看板がないことが分かり、「平成30年7月豪雨対策型小規模事業者持続化補助金」を活用しての販促ツールづくりに取り組むこととし、同申請書の作成支援も行った。HP作成や看板製作は、大洲商工会議所の会員企業に依頼することとした。

支援の効果

「ものづくり補助金」は無事採択され、平成30年12月には全自動反転式返縫機という新設備を導入し、高度な生産体制が構築できるようになった。補助金も平成31年1月に入金され、つなぎ資金としての短期借入金も返済できた。

具体的には、全自動反転式返縫機で返し縫いが自動化されることで生産性が向上し、短納期、多品種対応が可能となり、売り逃していた客を取り込むことができ新規顧客層への展開が進められる。また、製造技術が高まることで競争力が強化され、価格競争ではなく品質向上で収益力が向上する。さらに、設備導入を機に、熟練技術という属人的であった技術ノウハウが全社員に共有され、社内技術ノウハウが底上げできるといった効果が見い出せるものと考えている。

「小規模事業者持続化補助金」の採択結果は発表されていないが、もし採択となると販促ツールの充実化による販路開拓も売上アップに有効にはたらくものと期待している。

今後の展開

中国産のイ草畳が80%を超える現況のなかで、減農薬栽培で安全・安心な国産イ草を使った畳の良さ、化学繊維にない吸湿性や難燃性、柔らかい触感、抗菌、吸音、衝撃吸収等をアピールし、バリエーション豊かな畳作り、知識の広報活動にも注力しながら、畳ファンづくり、日本畳文化の継承にも貢献していく。

また、当店の強みである家族経営での結束力と、時間外でも柔軟な顧客対応力とを發揮し、顧客との信頼関係づくりを大切にしていく。工場の中で畳を作るだけでなく、工場外での作業も重視し顧客と真摯に向き合い、しっかりとした商品説明、顧客の部屋の形状に合わせたぴったりサイズの畳作りで顧客満足度の向上を目指していく。

一方、生産効率化で生まれた余裕時間を営業・納品活動での車移動時間に充当し、松山市や宇和島市といった受注量の大きい市場にも乗り出し売上拡大を図っていく考えである。

事業者の声

大洲商工会議所を経由したよろず支援拠点での相談対応の結果、「ものづくり補助金」を提案され申請することになりましたが、申請締め切りまで時間が少ない中、集中的に申請書作成のサポートして頂きました。豪雨災害で壊滅的な被害を受け、事業再建が危ぶまれましたが、同補助金の採択を受け、事業も再スタートし明るい未来が展望できるようになったことに感謝申し上げます。



代表 木下 恵美子

支援者の声

最初の相談対応で感じたことは、相談者の何としても事業を再建させたいとの必死の思いでした。その思いに応えるべく、設備導入のための「ものづくり補助金」申請書作成を支援していきました。

同補助金の採択を得られたのは、相談者の真摯な取り組みと大洲商工会議所の経営指導員の方々のバックアップがあったからこそであり、皆様に厚くお礼申し上げます。



愛媛県よろず支援拠点
コーディネーター 上田 保